

グループ会社の安全対策

運輸安全マネジメントに基づく安全対策

京王グループ運輸業各社では「運輸安全マネジメント」に取り組み、安全管理規程の制定、事故件数削減目標の設定、安全意識の向上などを行うとともに、安全関連情報をホームページで公表しています。

また、社長以下役員が営業所を巡回し、安全管理体制の確認や、営業所員・乗務員と安全に関する意見交換を行うなど、積極的なコミュニケーションを通じて、輸送の安全確保を図っています。

バス

▶安全装置の導入

●ドライブレコーダー

京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、車内外に設置されたカメラとマイク(集音装置)により映像・音声情報を記録・再生するドライブレコーダーを全車両に導入しています。また、左折時や進路変更時の事故防止を目的として左折チャイムを導入している他、路線バスに車内確認用の補助ミラーを設置しています。



ドライブレコーダー

●運転訓練車

京王電鉄バスグループでは、アイマークレコーダー^{※1}や安全確認装置^{※2}などにより、運転の様子を映像と音声で記録するとともに、運転状況をチェックできる車内モニターが備えられている「運転訓練車」を、関東の各民営バス会社に先駆けて導入しています。

※1 アイマークレコーダー：乗務員が装着したカメラで目の動きを映像化して記録する装置

※2 安全確認装置：乗務員が安全確認を必要とする箇所を点灯などで示す装置



運転訓練車

●衝突被害軽減ブレーキ

高速バス事業では、走行中に高精度ミリ波レーダーで前車との車間距離を監視し、車間距離が近づき衝突の恐れがある場合に警報音で注意を促すと同時に、衝突の可能性が高いと判断した場合にはブレーキを作動させ、万一の衝突事故の被害を低減する「衝突被害軽減ブレーキ」を搭載した車両を導入しています。



衝突被害軽減ブレーキ搭載車両

そのほかにもアイトラッカー(視線計測装置)、モバイルアイ(衝突防止補助装置)など事故防止対策機器を積極的に導入し、京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、車間距離警報装置を160両、またバスジャック対策として、走行中に運転を妨害されないようにするための囲い(ドライバーズガード)を121両に導入しています。

▶ 事故の未然防止

● 乗務員の教育

京王電鉄バスグループでは、通常では体験できない運転上の危険などを体験する泊りがけの研修を行うなど、安全運転に対する意識の向上を図っています。西東京バスでは、全乗務員を対象に、社長懇談会、事故防止・接遇向上の座学研修、運転実技訓練の3部構成の定期研修を開催し、役員が会社方針の説明を行うほか社長が質疑応答を通じ全乗務員と直接対話することで、現場の声を安全対策につなげています。



運転実技訓練



座学研修

● 乗務員の健康管理

京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、乗務員の健康リスクを管理するために、SASスクリーニング検査や脳ドック(MRI)検査を実施し、健康起因事故の未然防止に努めています。



管理職から営業係への健康面談

タクシー

京王自動車グループでは「安全・安心」の取り組みとして、「安全運転支援システム」を導入し、IT会社との共同開発を続け、システムの改良を進めていきます。

また、年2回の現業説明会「くるま座」を開催し、本社経営層と乗務員のリーダーで意見交換を図り、本社と営業所が一丸となって事故防止に努めています。



車庫内で一時停止の実技講習

トラック

京王運輸では、2008年に全日本トラック協会が認定する「安全性優良事業所」の取得率100%(全5事業所)を達成しました(業界全体の取得率は30.2%)。

また、安全性優良事業所に10年間認定されたことにより、多摩営業所が2017年に関東運輸局長より表彰されました。



安全性優良事業所に交付される「Gマーク」が貼付されたトラック